

調査委員会における調査研究報告書

教科名（音楽【一般】）

No. 1

調査研究の観点	所 見		
	発行者（教育出版） 発行者番号（ 17 ）	発行者（教育芸術社） 発行者番号（ 27 ）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内 容	①外国の歌唱曲を4曲取り上げているが、第2学年での取り上げがない。 ②日本の歌唱曲を21曲取り上げている。また、第1学年で「夏の思い出」の二部合唱が2小節のみ扱われている。 ③曲ごとに、学習目標、用語や記号などを取り上げている。 ④日本郷土芸能の単元について、第1学年～第3学年で取り上げている。 ⑤第2学年で「浜辺の歌」を扱っている。 ⑥創作教材は活動の手順が示されており、各単元においては、二次元コードから本教科書に完全準拠した「まなびリンク」にアクセスすることができる。 ⑦音楽科で育成を目指す資質・能力の知識と技能が一緒に取り上げられている。	①外国の歌唱曲を5曲取り上げている。 ②日本の歌唱曲を19曲取り上げている。また、「夏の思い出」を第2学年で「取り上げており、二部合唱が8小節で扱われている。 ③曲ごとに、学習目標、活動文、楽曲の紹介文、音楽を形づくっている要素、用語や記号、考えたいポイントなどを取り上げている。 ④日本郷土芸能の単元について、第1学年～第3学年で取り上げている。 ⑤第2学年で「浜辺の歌」を扱っていない。 ⑥創作教材は、キャラクターの吹き出しや設問の内容が配慮されており、二次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツが350点以上あり充実している。その中では、つくった旋律を簡単に再生できるものがある。 ⑦音楽科で育成を目指す資質・能力の知識と技能が別々に取り上げられている。	
2 構成・分量	①歌唱曲はめあてが設定されているもの25曲、楽譜のみ28曲が掲載されている。 ②鑑賞曲は、楽譜や写真などの詳しい説明があるものでは、日本の音楽5演目18曲、諸外国の音楽6演目22曲掲載されている。また、短い説明や曲名のみの簡単な紹介がされているものは、日本の音楽59曲、諸外国の音楽4演目27曲掲載されている。 ③部分的に指導できるような創作の題材が6つ掲載されている。 ④言語活動では、管楽器や楽器のカテゴリーごとに、表現の仕方を音楽的な見方・考え方を働かせて整理し、交流して共有するページを設定している。	①歌唱曲は具体的なめあてが設定されているもの24曲、楽譜のみ28曲が掲載されている。 ②鑑賞曲は、楽譜や写真などの詳しい説明があるものでは、日本の音楽4演目10曲、諸外国の音楽4演目15曲が掲載されている。また、短い説明や曲名のみの簡単な紹介がされているものは、日本の音楽17演目146曲、諸外国の音楽39演目92曲掲載されている。 ③全体の構成を見通して指導できる創作の題材が6つ掲載されている。 ④言語活動では、個々の音楽の特徴を捉え、複数の音楽を比較したり関連付けたりするなどして、それぞれの音楽の共通性や固有性を理解できるようページが設定されている。	
3 表記・表現	①学習の配列に関しては、音楽科の学習の見通しがもて、学びを深められるよう、「学習MAP」が表記されている。 ②判読性・視認性の高い配色とレイアウト、ユニバーサルデザインフォントの使用など、細部にわたり配慮されている。 ③作曲者のファーストネームを全てカタカナ表記してある。 ④2・3年下「花」の楽譜では、2番の曲中に次ページに続いている。 ⑤二次元コードの説明が「見る」「聴く」「記録する」の表記である。 ⑥西洋の作曲家の学習ページには西洋音楽史の時代区分表記があると共に、日本の歴史時代区分でも紹介している。 ⑦「小フーガト短調」と題し、正式曲名に触れず他と区別するための呼び方である旨の説明文がある。	①学習の配列に関しては、生徒の発達段階に応じて、資質・能力が育成されるよう、小中の9年間の系統性と一貫性を重視した学習内容が配列されている。 ②区別しやすい配色を用い、学習上の必要に応じて形状や濃度を違えている。また、楽譜を含めた大部分のページでユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ③作曲者のファーストネームは、アルファベット表記で省略してある。 ④2・3年の下「花」の楽譜が間奏で次ページに続いている。 ⑤二次元コードの説明が「動画」「音源」などの表記以外にも、内容について文字表記がされている。 ⑥西洋の作曲家の学習ページに西洋音楽史の時代区分に関する表記をせず、発達段階を踏まえて日本の歴史時代区分で紹介している。 ⑦「フーガト短調」と題し、「小フーガ」という愛称で親しまれている旨の説明文がある。	
4 使用上の便宜	①折り込み見開きのページが巻末にある。 ②伝統芸能や民謡などは、実際に音楽の一部が体験できるような学習展開になっている。 ③歌唱のページでは、模範演奏において、二次元コードの資料として載っている。 ④各教材において、目標とする学習内容が明記されている。	①折り込みのページはない。 ②伝統芸能や民謡などは、実際に音楽の一部が体験できるような学習展開になっている。また、演奏者からのアドバイス等も掲載されている。 ③歌唱のページには、カラピアノや模範演奏などの参考音源が二次元コードで資料として載っている。 ④各教材において、目標とする学習内容が生徒の学習活動が展開しやすくなるように明記されている。	

調査委員会における調査研究報告書

教科名（音楽【器楽】）

No.2

調査研究の観点	所 見		
	発行者（教育出版） 発行者番号（ 17 ）	発行者（教育芸術社） 発行者番号（ 27 ）	発行者（ ） 発行者番号（ ）
1 内 容	①曲ごとに、学習目標、用語や記号などを取り上げている。 ②打楽器では、奏法についてポイントを端的にまとめ記している。 ③箏の単元でいろいろな奏法の基本的事項について取り上げている。 ④箏の単元では、横譜で扱われている。 ⑤多様な楽曲の組み合わせによるアンサンブル活動が掲載されている。 ⑥音楽科で育成を目指す資質・能力の知識と技能が一緒に取り上げられている。	①曲ごとに、学習目標、活動文、音楽を形づくっている要素、用語や記号、考えたいポイントなどを取り上げている。 ②打楽器では、奏法について、持ち方や叩き方を説明し、楽譜の読み方や練習方法など多岐に渡り解説を行っている。 ③箏の単元でいろいろな奏法が多く取り上げられている。 ④箏の単元では、縦譜が2曲扱われている。 ⑤和楽器を用いた平易なアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲が取り上げられている。 ⑥音楽科で育成を目指す資質・能力の知識と技能が別々に取り上げられている。	
2 構成・分量	①歌唱曲との関連が図られている曲が3曲扱われている。 ②日本の和楽器演奏では、縦譜を3曲扱っている。 ③外国の音楽の曲数は15曲である。 ④リコーダーで扱っている曲数は20曲、打楽器で扱っている曲数は2曲、和楽器で扱っている曲数は9曲である。	①歌唱曲との関連が図られている曲が8曲扱われている。 ②日本の和楽器演奏では、縦譜を5曲扱っている。 ③外国の音楽の曲数は25曲である。 ④リコーダーで扱っている曲数は19曲、打楽器で扱っている曲数は7曲、和楽器で扱っている曲数は14曲である。	
3 表記・表現	①楽譜の周囲に太さや大きさの異なる文字表記やコードネーム等、楽譜以外の情報が多い。 ②ギターのチューニング解説がポイントを絞って示され、楽譜が記されている。 ③ギターの楽器の特徴について書かれている。 ④二次元コードの説明が「見る」「聴く」「記録する」の表記である。	①楽譜欄と文字説明欄の区別がされており、基本的に楽譜のみで表記されている。 ②ギターのチューニングに必要な英語音名が6弦全てに表記されている。 ③ギターの楽器の特徴に加え、箏と琴の表記の違いについて、触れている。 ④二次元コードの説明が「動画」「音源」などの表記以外にも、内容について文字表記がされている。	
4 使用上の便宜	①折り込み見開きのページが巻末にある。 ②二次元コードの位置が、表題の隣に基本設定されている。 ③ページ内のデジタルコンテンツと対応している文言の横に、二次元コードが載っている。	①折り込みのページはない。 ②参考動画等の二次元コードの位置が、基本的にページの右下で統一されている。 ③二次元コードの上に、デジタルコンテンツの説明が書かれている。	